

名城大学経済・経営学会 学生研究助成（学部）

活動実施報告書

経済学部

専門ゼミナール1・2 伊藤志のぶ

1. 令和6（2024）年度のゼミナール活動の目的と研究助成

令和4（2022）年・令和5（2023）年度に引き続き、今年度のゼミナール活動も SDG's の目標に関連付けて、日本の現代社会が抱える問題を取り上げ探究するものである。活動の単位として計6班を形成するが、2年生と3年生の混合チームを作り、プロジェクトに対する貢献について互いの力不足を補う。プロジェクトの遂行を通して、社会人として仕事をする上で必要とされる「予測不可能な事態に対処する力」の取得を目指している。プロジェクトは、ものづくりの現場や生産地の調査にかけ、実際に木工製品などを制作し、販売する。その過程で、予定外の出来事や困難に出会い、班員が協力して解決方法を見つける必要が出てくる。このような事態に対応することで問題の解決能力を醸成することがゼミナール活動としての目的である。また、令和4（2022）年度より愛知県立名古屋聾学校高等部専攻科（高等部修了後の専門課程）インテリア科からの申し出を受け、共同で木工制作のプロジェクトを立ち上げ、遂行することになった。名城大学は愛知県と令和3年に『愛知県と学校法人名城大学との連携・協力に関する包括協定』を締結しており、県立学校との協力はこの協定の下で始まったという事ができる。各班に1人以上の専攻科生を配して木工制作については聴覚障害のあるメンバーが技術指導を行う。何をどのように制作し、誰がどの段階の責任をもって作業にあたるのかについて、全員で相談して決定する。開始当初は双方が直接に話し合う前に、逐一、担当教員に尋ねる場面が多いのだが、作業が進行するうちにお互いにコミュニケーションの方法を工夫し、直接話し合えるようになる。各班に偏りなく専攻科生を配置し、話し合いや作業を通して課題解決能力を身に着けることが、前述「目的」の最優先内容である。

令和6（2024）年度は、初年度からの取組と同様、愛知大学野球連盟から使えなくなった木製バットを譲り受けて、生活に役立つものをデザインし作成した。これらの販売計画（一応のプロジェクトのゴール）を話し合った第1回の合同授業の際に、木工作品と木工ワークショップの売り上げを能登半島の被災地に贈ることを目標にすると決定した。「人の役に立つものを作り、人の役に立つ行動をする」という行動目標が、学生と生徒が自分たちで決めたプロジェクトの目的である。

以上の目的と計画を実現するために、名城大学生は名古屋聾学校を定期的に訪問する必要があり、その交通費や「折れたバット」以外の材料、文房具は、名城大学経済・経営学会学生研究助成をはじめ、経済学部の実験実習費、経済学部懇談会費、および「学びのコミュニティ創出支援事業」の御支援を頂いたことを記して感謝申し上げる。

2. 令和6（2024）年度活動内容と成果

本年度のプロジェクトに関する活動を時系列で示すと次のようになる。

4月：愛知県立名古屋聾学校専攻科インテリア科と顔合わせ。代表生徒（学生）による、

互いの学校紹介（プレゼンテーション）、自己紹介と簡単な手話の紹介。

プロジェクトのための班の結成と年間計画の決定。

5月：班で取り組むテーマ（SDG's）を決定し、テーマについて研究報告の準備。

ゼミ報告をする。共同プロジェクトの作品のアイディアを出し合い決定する。

試作品の作成。

6月～9月：研究テーマの探求と木工作品の制作。

発表資料の作成、テーマについてのゼミ報告（プレゼンテーション）など。

夏休み課題の発表。

10月26日：名古屋聾学校文化祭 活動の発表パネル展示と作品の販売。

11月1日・2日：名城大学祭 活動の発表パネル展示と作品の販売、ワークショップ。

11月23日：障がい者ワークフェア 2024 活動の発表パネル展示と作品の販売。

12月7日：経済学部レポートフェスティバル 活動テーマの研究報告。

1月29日：寄付金贈呈式（中部善意銀行／於：中日新聞社）

プロジェクト収益金と目録を代表者が持参。

11月～1月：論文執筆と提出。

上記のカレンダーには書き入れなかったが、合同授業は4月から10月を中心に行われた。聾学校から生徒を天白校地に迎える際には、名城大学の（附属図書館など）各施設に入場、利用に関するご協力を頂いた。プロジェクトを継続的に取り組んできた結果、2025年の3月から9月にかけて開催される『愛・地球博 20周年記念事業 学園祭』への出展を要請され、次年度である令和7（2025）年も引き続き、愛知県立名古屋聾学校との協力と、今年度同様の取組を行う事、さらに愛知県の同事業への参画が決定している。これらは、学生・生徒達の努力もあるが、各イベントで作品を購入頂いた多くの方々、ワークショップに参加されご寄付を頂いた方々、特に地元の皆様のご協力無くしては成り立たなかった。「折れたバットから作品をアップサイクル」するための材料の木製バットは、令和4年（2022年）度以来、愛知大学野球連盟からの提供を受けてきたが、これらのバットを集め、汚れを落としてから届けられる硬式野球部関係者の方々に負うところは大きい。令和6（2024）年度もバットは、各大学から集められ、定期的に名古屋聾学校に届けられた。1月29日（水）に中日新聞社本社で行われた中部善意銀行への『寄付金贈呈式』には愛知大学野球連盟からの代表者と名城大学生、名古屋聾学校専攻科生が出席した。立場の異なる一人一人がそれぞれに役割を果たし、それが成果に結びついた1年であったといえる。以上が、令和6（2024）年度のゼミナール活動の概要である。

令和7（2025）年2月9日